



# 同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会

〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12

TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

## 希望と絆と未来ある若い世代へ



永井広明会長  
(昭和51年卒業)

新緑の香りが爽やかな風と共に感じられる季節となりました。昨年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世の中が以前とはまるで変わってしまった、日常

の暮らしは不便で困難を極めるようになりました。会員の皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか。大変心配しております。日頃の同窓会活動にご理解とご協力を頂きまして感謝しております。

我が同窓会も昨年の総会は書面での開催とし、ご決議をいただきました。ホームカミングデイ等の行事は全て中止となりました。しかし、同窓会としても手をこまねき、何も動かない訳にはまいりません。感染症対策グッズの抗菌マスクケースを緊急に製作し、現役生、学校職員の皆さんに配布いたしました。大学入学共通テスト受験者は名電特製「落ちないファイル」とマスクケースを持って受験に臨みました。今年は今現役生への支援や行事をやり遂げるべく準備をしております。

緊急事態宣言が発出され、スポーツも文化系も、多くの大会が次々中止になりました。しかし、この苦難の中でも現役高校生たちは素晴らしい活躍をいたしました。ダンス部、チアリーディング部の入賞、卓球部は全日本選手権ジュニアの部に於いて表彰台を独占し、最強、愛工大名電卓球部の名を全国に轟かせました。活動が著しく制限された吹奏楽部は生徒が自分達で考えた万全の感染予防対策がメディアに取り上げられ、その意識の高さを全国に知らしめました。

この難局を希望を持って乗り越え、絆を未来ある若い世代へと繋いで、歩んでまいりたいと思います。

## ひるむことなく「ものづくり教育」を



後藤泰之理事長  
(同窓会名誉会長)

名古屋電気学園は、今年の11月に学園創立109周年を迎え、来年2022年は110周年の節目になります。これもひとえに各設置校の同窓生の皆様のご理解とご協力によるものと心から感謝申し上げます。

昨年は(あるいは現在も)、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。各設置学校では、休校やオンラインによる授業が実施され、部活動や卒業式、入学式をはじめとする各種行事が中止もしくは縮小や工夫して執り行わざるを得ませんでした。しかしながら、我々はひるむことなく、学園全体で「ものづくり教育」を柱に、創造力と人間性を兼ね備えた優秀な人材育成に努めております。

高校・中学校では、校名を「名電」ブランドに統一して、教育活動における取り組みの見直し、相互の連携推進を図り「名電らしさ、名電の特色とは何か」を常に考えながら検討を続けています。科学技術科・情報科学科などの特色を生かし、学習面だけでなく、今までどおり「部活動も重要な教育の柱」と位置付け、普通科も合わせて、愛知工業大学との「中高大連携」を強化し、専門学校も含めた学園全体としての「二貫教育」を推進したいと考えております。

名古屋電気学園を取り巻く環境は、少子化、人材ニーズの多様化など、厳しい状況が立ちはだかっています。それでも進化を続けていくことが求められています。

教職員一人一人が丸となって、新時代にふさわしい人材育成という使命を果たす覚悟でございますが、同窓生の皆様にも、引き続き本学園に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 新型コロナウイルス対策について

新型コロナウイルスの影響により、今年度は6月1日から新学期が始まりました。始めるにあたり、校長先生より新型コロナウイルス対策を十分に練り、保護者が安心し、生徒が安全に学校生活を送れるようにとの指示を受けました。

私たち保健安全部では、毎朝の検温を欠かすことなく行い、教室等の換気、手指の消毒の習慣化に努めています。また、学校全体としても先生方の協力により、3密回避の呼びかけ、毎朝の生徒の体調観察を行っています。

そのような地道な努力のおかげで、2月1日の時点で、本校では新型コロナウイルス感染者を一人も出しておりません。対策当初より、体温測定カメラ5台を購入、アルコール消毒液の購買ルートを確保し対策をたやすことなく行うことができるとしていただいていた、学園の協力も大きいと思います。今後も、学園並びに全教職員の協力のもと、気を緩めずに対策の徹底を今まで通り行わなければな

らないと考えています。

また、当校はクラブ活動が大変盛んなため、日々の活動においても練習場の換気は言うまでもなく、練習前後はもちろん手指の消毒を欠かさず、使用した器具類も入念に消毒する等し、新型コロナウイルス感染症拡大に歯止めをかけています。

(保健安全部長 川嶋範夫)



検温の様子



導入された体温測定カメラ

# 卓球部

日頃より、本校卓球部の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。今も尚、世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により卓球競技も各種大会が中止となりました。特に5連覇中であった全国選抜(令和元年度)、4連覇中であったインターハイ(令和2年度)が中止と発表されたときの生徒たちは、自分たちが連覇を止めてしまったという気持ちになつており、精神的にマイナスな影響は大きかったと思います。

卓球部は寮生活ということもあり4月の緊急事態宣言の時には全部員を実家に帰し、その後はおよそ2ヶ月間活動ができず、精神的ケアやリモートによるトレーニング指導を実施し、何とかモチベーションを維持してきました。

活動再開時は無くなつてしまつた大会のことよりも「卓球人生はこれからだ」「次の目標設定は2021年1月の全日本選手権である」ということを明確にし、取り組みました。部員

12人中11人が全国大会の切符を手にし、全日本選手権を目指しました。各種大会が中止となつておりコンディション調整に難しい部分はありましたがその分、時間をかけて体作りをしてきた効果もあり、全日本選手権では名電旋風を巻き起こすことができ、ジュニアシングルスにおいて1位から5位までの上位を独占、一般シングルスにおいてもランキングに2名入る成績を残しました。また、愛工大名電の選手は感染予防も徹底されており、体調を崩す選手も出さずに大会を終えることができました。

このような成果が出せたのも理事長先生、校長先生をはじめ、OBの皆様や今まで生徒や部活動に携わっていたいただいている全ての皆様のお陰だと思っております。大変感謝いたしております。ありがとうございます。

今後も目標設定を明確にし、全国制覇はもちろんですが卓球界に愛工大名電の名前を更に広められるよう

生徒と共に精進いたしました。引き続きのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

(監督 今枝一郎)



岩間校長と卓球部員たち(2018年度インターハイ)



昨年度のインターハイ優勝の選手たち





吹奏楽部

今年度は  
新型コロナウイルス  
ウィルス感  
染拡大の影  
響で、数々  
の演奏会や  
行事が無く  
なっていました。オリン  
ピック聖火式典(4月)やド  
ラゴンズ応援演奏(6月)な  
ど、メモリアルな行事の中止  
は残念でした。中でも2年越  
して計画と準備をしてきた  
「ベルリンフィルハーモニー  
(ドイツ)でのコンサート」演  
奏旅行の断念は、部員たち  
の夢を大きく打ち砕く出来  
事でした。追いつちをかける  
ように、吹奏楽コンクール、  
マーチングコンテスト、大会  
の中止発表。……。部員は  
「コンクールや演奏会で感  
染が起きたら悲しい」「今は  
人の命を守ることが第一、各  
自で今できる事をしよう」と  
と表面上はとても謙虚でし  
た。私は、部員の夢が幻と  
なってしまう、本当に悔しく  
可哀そうでありませんでした  
た。

吹奏楽部は市外や隣県か  
ら通う部員も多く、「緊急事  
態宣言」中は配慮して全て

ピンチをチャンスに変えた部員たち

休部にしました。休校中、部  
員は、電話、メールで仲間や  
後輩を励まし合っていました。  
まだ会ったことのない1  
年生にも暖かく電話をかけ  
るなど、微笑ましい光景も  
沢山ありました。顧問も  
部員を勇気づけようと「ア  
ドバイス」や「元気の出る映  
像」をYouTube配信。  
また、190人全員へ毎日  
メール返信、電話相談、楽譜  
整理、掃除、楽器修理と私た  
ちも必死の日々でした。厳  
しいコロナ禍の夏、部員たち  
と顧問は「ピンチをチャンス  
に変えよう」と力強く、逞し  
く、こうしてコロナに立ち向  
かっています。

「何からスタートしてよ  
いのか?」と迷っていた休校  
明け。4人の幹部が「安心・  
充実して部活が再開できる  
ように」と、「活動テキスト  
ンス」なる冊子を制作し始  
めました。振り返るとこれが  
「チャンスに変わる」第一歩  
でした。内容は「エチケット・  
導線・練習場所・共有道具  
使用ルール作り、そしてフェ  
イスシールド・奏者間シー  
ルド等の飛沫感染対策」。次  
に、全員にマナーが身につく



コロナ禍の練習の様子

は大いに迷いました。そんな  
折、校長先生・学園より「感  
染防止に最大限の注意を払  
い、3年生の為に開催して  
あげてほしい」と暖かい言葉  
を頂きました。部員は大喜  
びでした。音楽の神様は、部  
員に大きな褒美を与えて  
くれたのです。

ただ、私には心配があり  
ました。毎年引き継がれて  
きた伝統の「名電サウンド」  
は果たして今年も再現でき  
るのだろうか。「定演」開  
催決定後、部員は、破竹の  
勢いで演奏会に向かい始め  
ました。演奏、演出、ダンス、  
ミュージカルと全員のエネ  
ルギーが吸い寄せられたか  
のように、ひとつになり進ん  
でいきました。私が心配す  
るまでもなく「伝統の名電  
サウンド」も見事に蘇ってき  
ました。仲間の「絆」と「伝  
統」の威力は本当に凄いも  
です。

定期演奏会当日は、時間  
短縮、3公演での開催とな  
りました。コロナ対策でいつ  
もの半分のお客さんではあ  
りましたが、演奏できる喜  
びを部員は感じ、渾身の想  
いで演奏していました。とり  
わけ、3年生は涙をうかべ心  
より音を奏でいました。



圧巻の演奏を披露した定期演奏会

絆から生まれた、熱いサ  
ウンド魂の音楽でした。終演  
には観客も総立ち。子供た  
ちを称える鳴りやまぬ拍手  
は、一生忘れることのできな  
い鳥肌の立つ光景でした。  
コロナ禍だからこそ、得ら  
れたものがあつた。コロナ禍  
だからこそ、「絆」も深まっ  
た。「ピンチをチャンスに変  
えた」素晴らしい部員たち  
でした。ありがとう3年生。  
最後に私たち吹奏楽部を  
支えてくださった、学校、保  
護者、卒業生の皆さんに心  
より感謝いたします。

(吹奏楽部顧問 伊藤宏樹)



ダンス部 【全国大会】

ダンス部は第13回日本高校ダンス部選手権全国大会(8月18日、19日・パシフィコ横浜)に出場し、2人以上12人以下で編成するスモールクラスで、過去最高成績となる8位に入賞しました。初出場したビッグクラス(13人以上で編成)も18位の成績を取めました。

スモールクラスはオーデイションで選ばれた10名のチームで出場し、東海北陸地区大会で初優勝。通算5回目の全国大会進出。また、ビッグクラスには希望者25名のチームで出場し、東海北陸地区大会で準優勝。全国大会への初出場を決めました。

大会前は毎日活動を行います。普段の活動は火曜・金曜の週2回。1回の練習が2時間となっています。そのため、活動のない日は各自で基本練習や動きの確認を行うこととなります。今回、新型コロナウイルスの影響により活動時間が大幅に短くなりましたが、普段の活動自体が短く集中するものであるため、生徒も限られた時間内で完成度を高める為に様々な工夫をし、活動時にコーチから与えられた課題を、高い集中力でこなすことができました。

2012年に同好会として発足したダンス部は、発足当初は20名弱の部員で活動を行っていましたが、2018年には100名を超える大

所帯となり、2019年より正式な部活動に昇格しました。今年度入賞した日本高校ダンス部選手権には2013年から出場し、2015年に初めて全国大会へ進出。今回は5回目の進出となりました。週2回しか活動がないため、部員全員が「今日は待ちに待った部活の日だ!」「もつと活動したい!」という思いで部活動に取り組み、「踊る人も、見る人も楽しめるダンス」を目指して活動しています。

競技を本気で愛し、楽しむことが出来れば、苦しみさえも忘れて本気の練習ができる。そして短い練習時間でも皆で気持ちを一にして取り組むことで素晴らしい結果を出すことが出来る、ということを生徒たちは今回の大会で示してくれました。

(顧問 清水隆博)



ビッグクラスに挑む部員たち



スモールクラス8位入賞のダンス部

チアリーディング部 【全国大会】

11月に国立代々木競技場第一体育館で開催されたチアリーディング大会「JAPANESE CUPチアリーディング日本選手権大会」で、チアリーディングスピリッツ部門7位入賞を果たすことができました。さらにもスモールグループ演技競技部門でも、Division1で10位、Division2で4位入賞を飾りました。

チアリーディングスピリッツ部門は、モーション、ジャンプ、ダンス、タングリングを組み合わせた1分30秒の演技であり、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で設立されました。大会演技では、他チームよりジャンプの数を多く取り入れ、決勝では練習以上の息の合った演技ができ、高さが変わらないジャンプが高評価を得ました。5人のスタンプ演技競技であるスモールグループでは、Division1で高難度の技に挑み、Division2ではノーマスの演技を決めることができました。

新部門のチアリーディングスピリッツは、チアリーディングの特徴であるスタンプができず、



7位入賞の部員たち



賞状を手にする部員たち

チーム内で葛藤もありましたが、生徒たちは休校期間中、動画を送り、あつたり、オンライン練習をして、個人のスキルの上達につなげました。また、会えないからこそ自分で考え、自身でやるべきことを見つけていく機会となりました。日々変わる状況に負けず、部員全員で「今できること」、「今だからできること」を探し、大会に向かって努力できたことが、今大会の結果につながったと思います。コロナ渦においても、練習ができることに感謝し、今年度の成績を上回る演技ができるよう、コミュニケーションをとって部員全員で頑張っていきたいと思えます。

(顧問 瀬脇春菜)

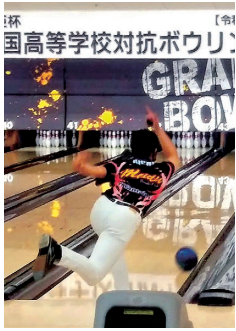


ボウリング部「全国大会」

津市で開催された「第27回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会」は、コロナ禍のため、無観客試合となり、完全入れ替え制のため9ゲーム連続投球という例年に無い条件の中での戦いとなりました。結果はAチームでも28位で決勝に進むことができませんでした。が、来年度へ向けて練習量の増加や内容の見直し等、選手から自発的に声が上がった事が大きな収穫だと思います。

最後になりましたが、同窓会のご支援に心よりお礼申し上げます。

(顧問 太田博隆)



大会の様子



ボウリング部の部員たち

クラブ紹介

テニス部

昭和38年に藪武光先生のもと創部され今年で57周年となります。OBは590人となり、毎年8月最終日曜日に神領で、テニスや食事を楽しむOB会を開催しています。

インターハイ団体1回出場(最高ベスト8)、個人18回出場(最高第3位)、全国選抜10回出場(最高ベスト8)、国体3回出場という成績を残してきました。今年度の部員は男女合わせて49名。男女合同練習に取り組み、県大会で男女アベック第3位を果たしました。

全国大会団体での賞状獲得を目標とし、メンタル強化のための競争、礼儀や相手への思いやる心をモットーとして活動しています。



テニス部の部員たち

システムコンピュータ部

システムコンピュータ部は、無線部として活動していましたが、時代の流れにより、無線機を使った研究から、WINDOWS95の発売と同時にパソコンブームが到来し、また、本校に情報科学科が開設され、いっしょに無線機からコンピュータへと生徒の興味が代わり、それに伴い名称も変更になった歴史があります。

実績としては情報科学科1期生時は、全国高等学校I・T簿記選手権大会(I・T部門)3年連続優勝、パソコン甲子園(プログラミング部門)入賞、など全国大会での成績も残しています。現在は部員47名(内女子2名)にてI・T簿記選手権、パソコン甲子園などの挑戦と動画編集、ロボットの楽しく活動しております。



システムコンピュータ部の部員たち

第2回Meidenキャリアサロン(IT業界)

「キャリアサロン」とはー現役で活躍している社会人を講師として招いて、その仕事の内容や楽しさ難しさを伺い、生徒自身の主体的な進路選択を促す機会です。



株式会社言語社 取締役 熊田裕明さん (平成20年卒業)

今回、「IT業界について、ぜひ現場の声を伝えてほしい」とお声がけいただき、講義をさせていただきました。

まず、IT業界というのは私の専門分野であるウェブ制作やそのシステム制作だけでなく、ウェブサービス事業開発、スマートフォンアプリ開発、金融システム、機械制御、業務用ソフトウェア開発など幅広く存在します。

また、毎日のように就職や転職活動に役立つ勉強会がたくさんあり、業界の最先端の方と繋がる事ができ、さらに、自分の悩んでいる技術的問題の解決方法、最新の技術動向、海外での事

例などをあらゆる情報が得られます。オンラインによる勉強会がメインになり場所にとらわれず誰でも参加できる機会が増えたので、生徒の皆さんも学校以外で学べる勉強会を活用していただきたいです。

質問の時間では、下積み時代の勉強の方法や就職について具体的な質問が多く、回答にも熱が入りました。

最後にIT業界は年齢や学歴だけでなくスキル次第で誰にでもチャンスがあります。生徒の皆さんには、やりたい仕事を身につけて、目標に向かって頑張っていたいただきたいと思えます。



オンラインで行われたキャリアサロン



同窓生の奮闘

たくち ゆうじ  
田口 裕司さん  
(昭和61年卒業)



高校2年時、海外遠征の  
ロサンゼルスにて  
田口裕司さん(中央)

高校生活の思い出

高校時代を振り返りたくさんの  
出逢いに感謝しています。

吹奏楽部に所属し、今では信じら  
れない程の貴重な経験も積みまし  
た。充実した三年間でしたが、やはり  
何より、ワクワクした入学当初を忘  
れられません。

教室では、吹奏楽部に通うらしき  
者を見つけ、彼らに声を掛けると、僕  
を部室まで案内し、顧問の松井先生  
に紹介してくれました。「おおつ、君  
がゲロくんかー！」と、張りのあるあ  
の声でニコニコと迎えて下さった先  
生の姿が今でも脳裏に焼き付いてい  
ます。見学ではちようど「トロンポー  
ンキング」(!!)が練習されており、先  
輩方に混ざり、もうその曲を吹けて  
いる同期にも驚かされました。

温泉旅館を仕事にしたきっかけ

卒業後は別の仕事に就きました  
が、四年程過ぎてから家業である昭

和初期から続くこの旅館を継ぐ事  
になりました。その頃の旅行ブームに  
重なり、雑誌に載せて頂ける機会に  
恵まれ、反響からお客様が増え始め、  
そんな中「やるなら料理だな」と決  
心し今に至ります。小さな宿ですが、  
在学中から「下呂の温泉旅館」と知っ  
ていただき、亡くなられた松井先生  
をはじめ、たくさんの友人、お世話  
になった方々にも、何度も利用いた  
だいております。

今後の夢、目標について

この感染症による影響は深く、厳  
しい状況が続いていますが、ここは乗  
り越えなければなりません。これま  
で通りお客様に気軽に遊びに来て  
いただけるよう、また明るく皆さんを  
おもてなしできる時を心待ちに、少  
しばかり辛抱を続けながら備えよ  
うと思っております。

思い出話と、そして音楽仲間には  
楽器なども携えて、お越しいたさ  
きたいです。もう随分と時間が経って  
しまいました。あの頃に培ったいろ  
ろな経験を支えに、益々精進しよう  
と思っております。



浅野屋外観

活躍する先輩

すずき とおる  
鈴木 享さん  
(昭和60年卒業)

プロゴルファー 岐阜県出身  
通算勝利 国内ツアー8勝  
チャレンジ3勝、シニア4勝



いわさき白露シニアトーナメント2018年優勝  
© 日本プロゴルフ協会

学生時代の思い出

名電高校のゴルフ部の活動は、平  
日はトレーニング中心、土曜は授業  
が終ってから、さなげカントリーク  
ラブにみんなで合宿、ほぼ毎週、一泊  
二日でラウンドしました。特に思い  
出深いのは、顧問の川村先生とのス  
コア勝負です。先生と一緒にコース  
を回り負けたら坊主頭になるとい  
うゲームで、一度も負けませんでした。  
40年くらい前の話で、今ではダメだ  
と思いますが(笑)、プレッシャーを感  
じながらも楽しんでやっていました。

大学からプロへ

卒業後は、日本大学へ進学しまし  
た。3年生の時に出場した、日本アマ  
チュアゴルフ選手権競技で優勝した  
ことでプロへの道が見えてきました。  
大学を卒業してすぐにプロテストを  
受け、ギリギリで合格。プロ選手と  
しての生活が始まりました。ただ最  
初の三、四年の間は試合に出ること

が出来ず、苦しい時期を過ごしまし  
た。所属したゴルフ場のオーナーから  
「君は、日本アマで優勝したけど、今  
のままでプロで長く活躍できない。  
もつと基礎から練習しなさい」と言  
われ、鍛錬する日々でした。

試合に出るには、まず予選会で成  
績を残さないと、出場権が得られま  
せん。その間、色々な方と出会い、中  
でもレジェンドと呼ばれる中嶋幸  
さんと一緒に練習する機会に恵まれ、多  
くのことを吸収させていただきました。  
そのうち、予選会を突破できるよ  
うになり、試合でも上位に食い込み  
シード権を獲得しました。26歳の時  
のことです。その後18年間シード権  
を守り続け、当時のプロ選手では最  
長記録となりました。その間に結婚  
し、家族もできました。私は大きな大  
会での優勝がなかったので複数年の  
シード権が取れず、本当年一年一年が  
勝負でした。今年ダメなら来年は無  
いんです。しかし、45歳で首のケガに  
より翌年からシード権を失ってしま  
いました。その後、戦いの場は下部ツ  
アーになり、3回の優勝、シニアでも  
優勝させていただき、お陰様ですつ  
と試合ができる環境にあります。

今後の夢

今年55歳になりますが、やつぱり  
今でもゴルフがもつと上手くなりた  
いです。時代と共に道具もスイング  
も進化し続けてますから、私も進化  
していきたいですね。

同窓会新役員紹介



副会長 東伸二さん (昭和52年卒業)

桜花の便りがとどく季節となりましたが、同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

このたび、御推挙賜り、同窓会副会長の任を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが、会長を支え、理事の皆様方と力を合



監事 松澤和史さん (昭和57年卒業)

同窓会会員の皆様におかれましては益々清祥のこと

とお慶び申し上げます。このたび、諸先輩方の推挙により役員総会において監事に就任いたしました。若輩者の私にこのような大役がとまるのか不安もございますが同窓会発展のために微力ではありますが、精一杯つとめさせていただきます。

学生時代は、先生方に迷惑ばかりかけておりましたが、少しでも母校に恩返しができるよう頑張つて参ります。同窓会会員の皆様におかれましては今後ともご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

せ、愛工大名電高校のさらなる発展のために全力をあげて取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

今まさに人類史上、誰も経験した事のない事態に直面しています。この状況の中、学生たちは目標をもって、学習や部活動に取り組んでいることは、同窓会として嬉しい限りです。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、あと少しだけ気を緩めないようガンバッテまいりましょう。



理事 渡部浩史さん (平成4年卒業)

前理事で卓球部OBの磯貝幸雄さんが体調不良で退任

され、後任として推薦されましたので、今年度より理事をさせていただきます事になりました。

卒業してから29年の月日が流れましたが、またこうして歴史のある名電高校の同窓会のお仕事をさせていただきます機会に恵まれたことに感謝しております。

地元・三重県四日市市に戻り現在も卓球に携わっていますので卓球部のサポートはもちろんのこと、いろいろな同窓会の方との関わりが楽しみです。

微力ながら精一杯お手伝いさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

令和2年度卒業クラス幹事のみなさん

【科学技術科】

- A組 高取祐一朗・西川聖哉
- B組 澤田芽杜・小川敬寛
- C組 堤 愛莉・若杉颯稀

【情報科学科】

- A組 石田千瑛・内野里菜

【普通科】

- A組※ 谷 愛音・水谷都子
- B組 鈴木涼介・野村響生
- C組 本多諒一・三好真愛
- D組 打田蒼平・鈴木聖蓮
- E組 石原拓実・鬼頭和久
- F組 野々垣彩音・菱田翔太
- G組 宮崎亜久里・萩原岳巳
- H組 高岡愛音・村端華玲
- I組 田中実桜・村上達哉
- J組 河邊七海・豊嶋智南
- K組 大石雄大・水野 優
- L組 堀澤慈恩・山岡遼太
- M組 野嶋 匠・松本直樹
- N組 小谷直輝・杉浦泰介

令和2年度役員総会開催

令和2年度役員総会は、書面会議とさせていただきます。同意書決議とし同意書の提出をもって役員総会と致しました。同意書の承認提出者36名(棄権6名)で原案は可決されました。

また、本年度は役員改選の年でありましたが、会長より役員全員に留任をお願い致しました。

※体調不良等で一部の役員が交代となりました。

◎同窓会からお祝い◎

令和2年度、全国大会出場の高校クラブ活動などに激励とお祝いをしました。

ダンス部・ボウリング部・相撲部・フェンシング部・競技スキー部・チアリーディング部・卓球部・大学入学共通テスト受験生激励(マスク・クリアファイル等購入)進路指導部。

その他同窓会から、全校生徒並びに全教職員にマスクケースを進呈しました。



ホームカミングデイ告知

第5回 ホームカミングデイ開催のお知らせ

愛知工業大学名電高等学校同窓会 ホームカミングデイを2021年11月上旬に開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

サポートスタッフの募集、イベント開催のご意見等も募集しております。

イベントの詳細や日程などはホームページでお知らせいたします。

<http://meidencoming.hatenablog.com/>

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止になる場合がございます。





岩間博校長の学校報告



岩間博校長

永井会長様をはじめ同窓会会員の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございますことに心から感謝申し上げます。

今年度は、かつてない形で始まりました。新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、入学式の翌日の4月7日に政府が緊急事態宣言を発出し、3月に続いて再び学校は臨時休校となりました。

そうした中、毎日自宅を過ごす生徒の生活リズムを整えるため、毎朝8時半には担任がオンラインで出席確認をしたうえで、その日の課題等について指導を行うこととしました。特に1年生は、学校生活において新たな人間関係を作る機会もないまま長期間の休校となり、生徒一人一人に対するサポ

「コロナ禍の新たな学校づくり」

トが必要な状況でした。幸い、今年度の入学生から全員に学習用タブレットを配付する準備を昨年度から進めていたこともあり、4月当初からタブレットを通して、クラス担任や教科担任が個別に生徒とコミュニケーションをとることができました。2、3年生についても、各生徒が所有するスマホやパソコン等を活用して同様のサポート体制を整え、規則正しい生活が維持できるよう配慮しました。

さらに5月の連休明けからは、全学年において2週間のオンライン授業をとつても初めての経験でしたが、生徒のいない教室でカメラに向かって授業を行う多くの先生方の真摯な姿に新しい学校の息吹を感じました。

6月からの学校再開後は、感染防止対策を徹底しながら、授業や部活動等の毎日の教育活動も、文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事も、「3密」防止の観点から内容や方法、時期を見直したうえで、できる限り実施しました。

毎年夏の全国大会には多くの部活動が出場していましたが、今年度は予選含めて様々な大会が中止となり、多くの3年生にとつて悔しさの残る夏となりました。しかしながら、どの部活動もそれぞれの目標を見出しながら地道な活動を続けたことは生徒一人一人の精神的な成長につながったと思います。

学習面では、夏休み等を短縮して授業時間の確保に努め、3年生は今年から始まった大学入学共通テストに270名を超える生徒が出席するなど積極的にチャレンジをしています。また、1年生では、若手の先生方を中心にタブレットを活用した新たな授業の形が創り出されています。

戸惑いの多い一年でしたが、新たな学校づくりへと一歩を踏み出すことのできた一年でもありました。今後とも、同窓会の皆様には、母校に対する温かいご支援を心からお願ひ申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しつつ報告とさせていただきます。

高校PTAから

「生き抜く力」



曾根希世 高校PTA会長

同窓会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。令和2年度のPTA会長を務めさせていただいております。曾根希世と申します。

新年度早々、新型コロナウイルス感染症防止のため、3か月という長期にわたる臨時休校を余儀なくされました。

インターハイ、甲子園の春夏大会中止など、未だかつて経験したことのない状況に子供たちのショックや悔しさはいか程のものだったかと思えます。

全ての部が頑張っているなか、今年度から部活として活動を始めたダンス部が全国大会への出場を果たしてくれました。

9月の文化祭は、2日間に分け生徒のみではありましたが、中止することなくオンライン配信をしていただいたことで子供たち

の生き生きとした姿や笑顔を見ることができました。先生方の配慮に心よりお礼申し上げます。

一年を振り返り、今年度は「我慢・忍耐の年」であったように思います。「ウィズコロナ時代」と言われ、私たちはこれからも共存していかなければなりません。校訓である「誠実・勤勉」の下で「生懸命励んでいく子供たちは、一段とたくましくなっていることと思います。子供たちも、新しい生活様式、新しい学習スタイルを見つけ、どのような事態の中でも「生き抜く力」を身につけた大人に成長してもらいたいと思えます。

生徒一人一人に寄り添い熱心に指導していただいている先生方、様々な形で支え応援していただいているOBの皆様感謝を申し上げますとともに、PTAとしまして、一つになって学校を支え、子供たちの力になつていこうとの決意を新たにいたしました。

最後に、一日も早く通常の生活が戻ることを祈念しております。